Communication

秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

No.83
2012.3月号

Contents

P2 園長あいさつ／こんにちは!あかちゃん

P3 移動動物／飼育動物数／訃報

P4･5 特集1 平成24年通常開園スタート！
もっと近くで。もっと感じて。

P6~9 特集2 動物に教え、学ぶ。～動物トレーニングの現場から～
◎動物病院から ●健康管理のためのトレーニング
◎飼育レポート ●元気で長生きしてもらうために
●大きなアシカと一緒に
●ミニブタ散歩の裏側
●キリンと向き合う中で見えてきた可能性

P10 ニホンイヌワシの有精卵の移動について

P11 イベントレポート

P12 飼育日誌／かたばた通信

［表紙写真］
アムールトラの仔、ヒロシ（左）とアサコ（右）。
5月中旬にはアサコが和歌山のアドベンチャーワールドへ旅立ちます。

園長あいさつ

園長　小松 守

新しい年が明け、皆さんは思いを新たにそれぞれの目標に向かい、歩み、あるいは駆け出していることと思います。国内外を問わず政治・経済、社会情勢は混迷の状態で年が明け、国内、なかんずく東北は東日本大震災の復興や原発事故から派生する環境問題が続出するなど、先が見えない閉塞感が強く漂ったままです。こうした中、年末に恒例になっている京都清水寺での漢字での世相表現では「絆」の字が書されました。多くの国民が意識した一字だったのでしょう。整然と皆で助け合おうとする姿は海外ニュースで配信されていましたが、「絆」への思いは、人のつながりを大事にしようとする日本人の「心」の現れであり、力の源にもなっているように思います。

一年前の震災直後、私たち秋田の動物園は春の開園日をひかえていました。様々なご意見のある中、私たちは敢えて開園に踏み切りました。動物の力を信じたからです。子どもは喜び、大人も動物から元気をもらいたかったのか、多くの方々にご来園いただきました。私たち大森山動物園は「動物と語らう森」をテーマに人と動物との出会い、ふれあいを大切にすることを一つの経営指針としております。動物を間近にすることで、安らぎとともに「生きる力」をも感じ取っていただきたいのです。子どもも大人もそれぞれの顔に動物に癒された優しい表情を見ることができました。日本人は動物が大好きで、そこには独特の雰囲気があります。動物を同胞的に捉える態度は、人と自然を一体的に捉える日本人の自然観に内包されたものとも言えます。

今年も秋田の動物園は「動物と語らう森」をテーマとします。「物の時代から心の時代へ」と言われる現代、心を大事にする動物園であり続けたいと思います。動物の力を信じ、様々な工夫やサービスでそれを皆さまにお伝えすることは私たちの大きな使命の一つです。スタッフは今、「大森山動物園、ますます変わったね・・・をお客さまから聞きましょう」を合い言葉に3月春のシーズン開園に向け新サービスでの魅力アップ作戦の準備を進めております。この4月には入園料の改定をさせていただきますが、より充実したサービスのご提供のためにも何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。入園しやすい割引制度なども準備させていただきます。今シーズンもご愛顧よろしくお願い申し上げます。

今年の干支は「辰」、架空の動物「竜」を当てています。「辰」の元々は「蜃」であり、これはハマグリが海底で勢いよく水（気）を吐き推進する様を表しているようです。私事になりますが、今年で動物園生活が38年目になり、年齢も暦が一巡する年になります。残された大森山生活、スタッフといっしょに動物園が秋田の元気に少しでも結びつくように、蜃のように勢いよく気を吐きながら取り組んで参りたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

こんにちは！あかちゃん　今回は双子のオンパレード！

カピバラ

9/25、若いメスのサツキが双子を生みました。まだ性別はわかりませんが、2頭は「ぐり」と「ぐら」と名付けられてスクスクと育っています。

アフリカタテガミヤマアラシ

9/5、メスのワヤが双子を生みました。先号でもお伝えしましたが、4月に引き続く出産で、旺盛な繁殖力に驚いています。

コモンマーモセット

11/5、若いメスのももが双子を生みました。1頭は7日目に亡くなりましたが、もう1頭は無事に育ち、80日齢を過ぎた現在では、ほぼ一人だちしています。

●この他、11月～本年1月にかけて、**ケヅメリクガメ**が8頭孵化しています。

移動動物のご紹介

ヨロシクね！

仲間入りした動物たち

アムールトラ

10/18、昨年の4月4日に広島市安佐動物公園で生まれたオスのヒロシとメスのアサコがやってきました。当園のアシリと昨年亡くなったウィッキーにとっては孫にあたります。来園当初は隅に隠れてばかりいましたが、11月から展示場に出るとやんちゃぶりを発揮し、2頭で追いかけっこをして遊ぶようになりました。

ピューマ

10/18、オスのピュータが名古屋市東山動植物園から来園しました。詳しい年齢は不明ですが、2001年から飼育されていたそうです。一足早く同園から来園したメスのピューコとあわせ、2頭とも凛々しい顔立ちで人気を集めそうです。

シバヤギ

12/7、八木信濃丞（やぎ しなのじょう）という立派な名前の1才のオスが、長野市茶臼山動物園から来園しました。

アメリカビーバー

10/27、八木山動物公園より若い個体2頭が来園しました。

プレーリードッグ

10/27、東武動物公園より、オス2頭が来園しました。

●この他、ふれあい広場に新しい**ウサギ**が仲間入りしています。

待ってるよ！

仲間入りする予定です

アミメキリン

今春、長野市茶臼山動物園から2010年6月13日生まれのオスのアミメキリンがやってくる予定です。

ツクシガモ

福山市動物園からツクシガモのペアが来園予定です。お楽しみに！

元気でね！

大森山を後にしました

ニホンリス

10/20、2010年生まれのオスとメスを福山市動物園へ搬出しました。

シバヤギ

10/24、2011年生まれのオス3メス2頭を動物交換で名古屋市東山動植物園に搬出しました。

イヌワシ

1/6、2011年3月31日生まれのメスを札幌市円山動物園に、さらに1/23、2011年4月7日生まれのメスを、東京都多摩動物公園に移動しました。これらは、希少動物の保護増殖に寄与するための移動です。

タンチョウ

10/24、2010年の5月に生まれたメスのチルチルを、動物交換で名古屋市東山動植物園に搬出しました。

飼育動物数

2011年12月末現在

類	種数	点数
哺乳類	53種	283点
鳥類	43種	187点
は虫類	9種	40点
両生類	1種	2点
魚類	4種	37点
無脊椎動物	1種	16点
計	111種	565点

訃報

忘れないよ…

カイウサギ〈ロップイヤー〉

9/18、昨春に道の駅セリオンの名誉駅長を務めたオスのムッキーが亡くなりました。

ホンドテン

11/6、特徴的な寝姿で親しまれていた当園生まれのオス、テンキチが亡くなりました。

ジャンボウサギ

№81号の表紙を飾ったジャンボウサギのオス、フトシが亡くなりました。

この他

アライグマ、ホンドタヌキ、ホンドザル、チョウゲンボウ、ニホンコウノトリ、ヒナイドリ、インドガン、インドクジャク、キタヤマドリ

などが亡くなりました。皆それぞれ活躍してくれた動物たちでした。冥福を祈ります。

もっと近くで。もっと感じて。

特集1 平成24年通常開園スタート!

秋田の大森山動物園は、動物との出会い、ふれあいを大切にしようと「動物と語らう森」をテーマに掲げている動物園です。動物の力を信じて、動物園活動で少しでも秋田の元気にお手伝いできればと動物とスタッフがいっしょになって取り組んでおります。

今シーズンはより一層の質の高いサービス、わかりやすい情報発信をしながら、魅せる展示や楽しいイベントを通じて、もっと近くで、もっと感じるワクワクする動物ランドを演出してまいります。

これら事業推進の財源確保のためにも、この4月からは入園料の改定をさせていただきますが、ご理解下さいますようお願い申し上げます。様々な割引制度も新しくご用意しながら今シーズンも皆さまをお待ち申し上げております。

開園時間 平成24年3月17日～12月2日［期間中無休］
午前9:00～午後4:30（入園は午後4:00まで）

入園時間 平成24年4月1日から入園料が変わります。

「受益と負担の適正化」を図るため、公共施設の使用料を見直し、右記のとおり改定することといたしました。
※冬期料金は廃止します。

入園料	大人	中学生以下	団体20名様以上	年間パスポート
平成24年 3月17日～31日	500円	無料	400円	1,200円
平成24年 4月1日～	700円	無料	500円	1,200円

平成24年の大森山動物園はこう変わる！ その1

もっと市民に近い市民型動物園を目指します。

年間パスポートは据え置きの1,200円

2回の来園で、断然お得になった年間パスポート。大森山動物園は、より多くの方々に、近所の公園またはお庭感覚で何度も利用してもらいたいとの思いから、料金据え置きのままでご提供させていただくこととしました。これを機に、動物園にお越しの際はぜひパスポート購入をご検討ください!

お客さまの声から生まれた「回数券」が新発売

有効期限がありませんので、少人数の団体様のご利用や企業様の販売促進ツール、プレゼントにもご活用ください。

5枚組	3,000円
20枚組	10,000円

おトクな割引制度を新設

「9月1日の動物園開園記念日」と「さよなら感謝祭が開催される通常開園日最後の日曜日」に、大人お一人500円で入園できる「特定日割引制度」を新設しました。また、様々な施設と連携した割引制度もあります。

平成24年の大森山動物園はこう変わる！ その2

動物と人がもっと身近で楽しめる動物園を目指します。

【見て楽しむ】
もっと近く、もっと感じる動物展示

動物を近い距離でご覧いただけるよう、平成24年度は、フラミンゴやアムールトラ、ニホンリス、ふれあい広場カメ展示場の改修を順次行う予定です。動物との距離が近くなるだけでなく、間近で動物たちとの撮影をお楽しみいただけるようになります。

フラミンゴ
園路沿いの柵がガラス板に変わり、新スポット『うつせるんです』として登場！より見やすく、より撮影しやすい展示場に生まれ変わります。

アムールトラ
花壇の一部を取り除き、動物のすぐ側まで近づくことができるようになります。ガラス板を設置し、迫力満点のアムールトラをガラス1枚隔てた至近距離でご覧いただけます。

リス
リス展示場内を歩いて通り抜けることができる、ウォークスルー展示に変わります。リスが過ごす空間を共有しながら、縦横無尽に動き回る様子を間近でお楽しみいただけます。

ふれあい広場 カメ
ふれあい広場のカメ展示場が暖房設備を備えたガラス展示場として新しくなります。季節を問わずケヅメリクガメをご覧いただける他、天気が良い日は、隣接する広場で散歩するカメをご覧いただけます。

昨年動物展示場に誕生した新スポット

動物の習性を生かした展示

マーコールの「空中回廊」と「天空の食卓」
高い場所など突拍子もない所での行動が目を引く「空中回廊」。また、青空の下で天を仰ぎながら食事する「天空の食卓」の展示は必見。

サル山
人間の子どもと同じようにブランコに揺られて楽しむサルたちに注目。

動物との距離が近いスポット

キリンの窓
いつも見上げる高さにあるキリンの顔が目の前まで迫ってくる様子は見応え十分です。

クジャクのくに
4月から6月までの時期は、クジャクが目の前で大きく羽を広げてくれるかもしれません。

【参加して楽しむ】
平成24年もイベントが盛りだくさん

3月17日	通常開園日イベント	8月14～17日	夜の動物園
6月3日	春の動物ふれあいフェスティバル	10月7・8日	秋の動物ふれあいフェスティバル
7月28・29日	親と子のふれあい写生大会	11月23日	いい夫婦の日イベント
8月上旬	サマースクール	12月2日	さよなら感謝祭（2012年閉園イベント）

※その他、なかよしタイム、エサやり体験、動物たちの「まんまタイム」、園長のお散歩ガイド、学校・団体向けイベントもあります。

【知って楽しむ】
見どころや動物園の旬な情報をチェック

動物園をより楽しんでいただけるよう、園内各所に情報板を設置。年間イベントや臨時イベント、赤ちゃん情報や新規導入・搬出予定動物、本日の動物園行事など、その時々のタイムリーな話題を提供し、お客さまの楽しみ方が広がるような情報をご提供いたします。

特集2

動物に教え、学ぶ。

～動物トレーニングの現場から～

大森山動物園がテーマに掲げている「動物と語らう森」の主役である動物について、動物行動学的な側面から取り組んでいるトレーニングを取り上げ、「なぜ、どのように行うのか。どんな効果をもたらすのか。」を概説し、動物トレーニングの実際をいくつか紹介します。

動物トレーニングについて

飼育展示担当 副参事　佐藤 佐十志

人に身近なペット動物では、「犬やねこのしつけ」のように、人と共生し、楽しく暮らしていくためにトレーニングが行われています。動物園動物の場合はどうでしょう。多くは野生動物であり、人と直接触れる機会は少ないのですが、病気の予防・早期発見・治療のためには動物に触れることが不可欠です。このため、人が触れても平気でいられる馴致トレーニング（ハズバンダリートレーニング：採血、体重測定、投薬などの健康管理を安全に行うためのトレーニング）が必要になります。

トレーニングは、動物の自発的な行動を促す「オペラント条件付け」を基本としています。これは、「動物の行動は、それを行った後で得られる結果によって決定される（道具的条件付けで学習する）」ことを利用したもので、動物にある目的の行動をとらせた都度、褒美（エサ）を与えれば、号令に従う条件反射が強化されることを意味します。簡単に言うと、オペラント条件付けトレーニングは動物を「ほめてしつける」ということになりますが、トレーニングを進める上で大切なのは、動物は人とは違った習性・行動・社会構造を持ち、常に人を注視していることを理解しながら、しぐさ（ボディランゲージ）や表情から動物の気持ちを読み取ることです。

適切なトレーニングは、人と動物の信頼関係を構築し、ペインコントロールなどの動物福祉にもつながります。動物園では、ハズバンダリートレーニングが中心となりますが、トレーニングの行き届いた動物は見る人に安心感を与え、周囲から温かく受け入れられます。動物の能力・魅力を最大限に引き出すツールとしてもトレーニングはますます重要になり、動物の視点に立った展示と生態保全が求められている中で、動物園動物にもトレーニングを施すのが当たり前になっていくでしょう。

動物病院から

健康管理のためのトレーニング

獣医師　柴田 千秋

大森山動物園では様々な動物のハズバンダリートレーニングに取り組んでいますが、その中で私たち獣医師が主に関わって行っているのが動物の採血トレーニングです。採血により血液検査が行えると、動物の健康状態を知ることができますし、動物の体調が悪くなった時にその原因を探る手がかりにもなります。そのため、定期的に採血ができるようトレーニングを日頃から行うことはとても重要なことなのです。

私が初めて取り組んだのはカリフォルニアアシカでした。一部の水族館などで行っていますが、当園では初めてのことで、私自身も全く知識や経験がなかったので、採血をする場所や使用する針の太さなど基本的な情報を調べることから始まりました。それから実際にアシカの近くに立つこと、次はしゃがむこと、その次は採血部位の脚鰭を触ることなど動作を一つずつ慣らしていきました。そして、最後には針の代わりになる先の尖ったもので刺激して慣れさせ、ついに採血に成功することができました。

現在では他に、アミメキリンやアフリカゾウの採血トレーニングにも取り組んでいます。どちらも昨年末に採血ができるようになりました。キリンでは、このようなトレーニングはこれまでほとんど行われていなかったので、とても画期的なことです。ゾウは、他の動物園で行われていますが、当園では幼い頃に嫌がって以来約12年間できなくなっていましたので、大きな進歩でした。

これからも新たな健康管理のためのトレーニングや、さらには治療を想定したトレーニングなど、担当者と協力して取り組んでいきたいと思います。

飼育レポート 1

元気で長生きしてもらうために

飼育展示担当　山上 昇

さて問題です？ゾウさんの寿命はどれくらいでしょうか。ゾウはとても長生きで65年ほど生きると言われています。大森山動物園の「だいすけ」と「花子」は、秋田に来て21年が経過し、現在22歳（推定）。まだまだこれからのゾウさんです。だからこそ大切なトレーニングがあります。

当園では、健康管理とゾウと担当者の信頼関係を築く目的で当初からトレーニングを行っていますが、特に、2年前からは「足の手入れ」と「採血」のトレーニングに力を入れて行っています。その結果、巨漢を支える2頭の足の手入れと花子の採血（血液を調べることで健康状態が分かります）が、可能になりました。足の手入れは、ゾウが小さい頃からトレーニングを行っており、まねごとのようなことはできていましたが、実際に削蹄や治療をする際、安定して行うことができませんでした。また、採血に至っては、♀が10歳頃に成功したことはありましたが、それ以降は、注射針の痛さが脳裏に焼き付いたのか？　採血を試みても拒否され続けていました。しかし、トレーニングの積み重ねの結果、12年ぶりに耳からの採血に成功しました。この瞬間、花子のトラウマも解消されたような気がしました。この感覚を忘れさせないために、計4回の採血を試みていずれも成功することができました。

この成果を大切にして、今後もトレーニングに磨きをかけ、お互いの信頼関係をもっともっと深め、2頭が元気で長生きし、その中で2世誕生もできれば、担当冥利に尽きると思っています。

飼育レポート 2

大きなアシカと一緒に

飼育展示担当　千葉 可奈子

大森山動物園では、2008年から♂アシカのマヤ（13歳）のトレーニングに取り組んでいます。私が初めてマヤと会った時の印象は「でっかいアシカだな～」でした。そのうち「この大きな動物に、もし、何かあったらどう対処できるのだろう。」と考えるようになりました。エサの時間以外は人に対し過度な警戒心を持ち、エサの時間であってもどこにも触ることができず、目で得られる情報は微々たるものでした。「ケガをしても麻酔をかけなければ何も出来ない。でも麻酔をかけることはリスクを伴う。もし麻酔をかけずに早期治療できたら大事に至る危険性もかなり軽減する。それならば頭の良い動物だしトレーニングは可能だ。ついでに人にも慣れてくれたら人にとっても安全だ！」ということでトレーニング開始となりました。

はじめは簡単な吻タッチや握手などから練習し、トレーニングを通じて信頼関係を築いていきました。その甲斐もあり、以前は新しく見るものすべてを怖がっていましたが、今では新しく見るものに興味を持てるまでになりしました。現在は、毎日体に触れ、口の中もチェックしています。過去に2回、採血による健康チェックも行いました。また、ある程度人の指示に従って動けるようになったため、お客さまに簡単なサインを出してもらってのエサやり体験や展示場の近くまで呼んで一緒に記念撮影などの、お客さまサービスをこなすことができるようになりました。今後もまだまだ発展していく予定ですので、マヤの成長を見守っていただきたいと思います。

飼育レポート 3

ミニブタ散歩の裏側

飼育展示担当　志田 昌信

大森山動物園に来たことのある方なら見たことがあるかもしれませんが、当園には芸達者なミニブタが2頭います。ゲッチンゲンという品種の雄のミニブタで、名前をトン吉とトン平といいます。寒さに弱く、冬はほとんど外に出ることはありませんが、暖かい時期には外で散歩をし、「お座り」や「お手」などを披露して来園者に楽しんでいただいています。しかし、こういったトレーニングは人に見せるためだけに行っているのではありません。実は飼育管理をする上でとても役に立っているのです。

例えばミニブタの体重を量るにはどうしたらいいでしょうか。体重計に乗ってくれ、と言っても乗ってくれませんし、無理矢理持ち上げて乗せようとしても逃げてしまうでしょう。ミニブタには立派な牙があり、怒らせれば人を傷つける可能性もあります。しかし、人について歩くことと、「お座り」ができれば体重計まで誘導して乗せることができます。トレーニングでは、目的とする動作ができたときには必ず褒めた後、褒美としてニンジンとサツマイモをあげています。

今は車などで移動することを考えて、大型のケージに入るようにトレーニングしています。多くの動物は狭い場所に閉じこめられるのを嫌います。それを怖がらなくなるように時間をかけて慣らしていきます。他にもまだまだ覚えてもらいことがたくさんあり、トン吉とトン平には頑張ってもらいたいと思いますので、見かけたときには応援してあげてください。

飼育レポート 4

キリンと向き合う中で見えてきた可能性

飼育展示担当　柴田 典弘

ターゲットトレーニング

削蹄トレーニング

2011年7月から、アミメキリン（メス リンリン6歳）のハズバンダリートレーニングを開始しました。オペラント条件付けに基づいた正の強化により、自発行動の頻度を増加させる手法を用いたことで、キリン自体がトレーニングに対し積極的な姿勢で取り組んでいます。また、健康管理につながる受診行為としてのみならず、お客さま向け動物解説、さらには冬季における屋内でのストレス軽減にも役立っています。

トレーニング開始前 ●2011年4月～6月

2011年4月にキリンの担当となりましたが、リンリンの第一印象は、「とにかく臆病な個体」でした。聞き慣れない物音や見知らぬ物に対し過敏に反応し、展示場内を勢いよく走り回るため、何度かハラハラさせられました。このままでは事故につながるとの思いから、飼育手法そのものを見直し、具体的な3つの手法を決めました。1.「枝葉給餌の頻度を高め、展示場内で静止している時間を増やす」、2.「展示そのもののペースをキリンに合わせ、全ての人的な圧力を排除する」、3.「近づく時は必ずエサを与え、人への警戒心を解く」です。効果は予想より早く表れ、5月上旬には「走らないキリン」になったことに加え、6月には柵越しに顔から大腿部までは容易に触れるほど、人に対する警戒心が薄れました。当初はトレーニングを意識していませんでしたが、さらなる可能性を感じ、ハズバンダリートレーニングを始めてみることにしました。

トレーニング開始 ●2011年7月3日～

始めに取り組んだのは、顔から胸にかけて過敏性を取り除いていくこと（脱感作（だつかんさ））と、キーパーに近づく行動の強化です。一次強化子としてはリンゴ、キャベツ、ペレットを、二次強化子にはホイッスルを使用しました。まずはエサを与えながら体を触ることを数日間実施した後、今度は触らせてくれたらホイッスルを鳴らしてエサを、次に横に移動した飼育員に一歩でも近づいたらホイッスルを鳴らしてエサを与えることを毎日午前・午後の2回、計5分～20分ほど実施しました。オペラントの基礎となるため、かなり細かく行動形成を行い（シェイピング）、こちらが望んだ動きをすれば「ピッ」っと音を鳴らしエサがもらえることを学習させました。

ターゲットトレーニング ●2011年7月13日～

トレーニング開始から10日ほどで、キリン自らが協力的な行動を見せ始め、飼育員を見かけると展示場のどこからでも必ず近寄ってくるようになりました。ターゲットトレーニングの初期段階では、1mと2mの2種類の棒を使用し、先端に口や舌をタッチすれば、ホイッスルが鳴ってエサがもらえるという一連の行動を強化しました。また、この頃にはトレーニングを楽しんでいるように感じられ、次の動作までの動きが機敏になった他、前肢蹄や背中まで触れるほど脱感作も進んでいました。

採血の様子

削蹄トレーニング ●2011年7月25日～

ターゲットトレーニングにより、棒の先端にタッチすればエサがもらえることを完全に学習していたことから、別の部位で行ってみました。口先だけだったタッチポイントを、まずは胸で追いかけられる（前に出る）ように強化した後、削蹄につながる前肢蹄へと移行させました。始めは全くの無反応でしたが、目で棒の先端を地面に向けて追わせた後、前肢の前でターゲットを止める動作を繰り返していたところ、「足踏み」するような動きが表れました。この動きを好機と捉え、こちらの方から蹄にタッチし、ホイッスルを鳴らしてみたところ、前肢どちらかを大きく前に差し出すようになりました。これを両前肢で何度も繰り返し、行動を確立させた後、差し出してきた前肢の蹄を触ることを強化し、最終的には金やすりで削っても動じない状態となりました。

これまでキリンの削蹄は、多くの動物園で困難を要するものとされていましたが、トレーニングによって、ハイリスクな麻酔の必要もなくなり、比較的安全に削ることができるようになることを実感した瞬間でした。

横向きトレーニング ●2011年8月7日～

これまでは常に正面を向いた状態でトレーニングしていたため、腹から尾にかけては触ることができませんでしたが、聴診や触診のみならず、採乳やエコー検査など幅広い可能性を考慮する必要があるため、横向き姿勢の維持を目的とした誘導トレーニングを組み込みました。基本的にエサが欲しくて人と向き合っているため、真横にするのは予想以上に難しいことでしたが、約20日間ターゲットによる横誘導を繰り返し行ったところ、9月上旬には左右のハンドサインだけで横を向いて静止できるようになりました。さらに、ターゲットによる臀部の柵寄せを強化したことにより、ターゲットを使用しなくとも、飼育員が手を左右どちらからの臀部に差し出すだけで、「自ら触られにくる」ようになりました。

採血トレーニング ●2011年9月23日～

頸部からの採血を想定し、番線や竹串を使用した頸部の脱感作を始めました。触られにくる動きに合わせ、「チクッ」と刺激を加えたと同時にホイッスルを鳴らしエサを与えることを繰り返しました。始めの数日間は刺激と同時にかなり過敏に反応し、飼育員から離れてしまう後退行動が見られるようになったため、何度か振り出し（刺激を与えずに触る）に戻しながら慎重に進めました。やがて過敏な行動が収まり、最終的には竹串を強く刺しても、動かない状態となりました。10月8日と19日には、獣医師による実際の針刺しを実施、そして12月16日、少量ではありましたが初の採血に成功しました。その後は、採血時の行動パターンを想定しながら脱感作を再強化し、今年の2月9日から定期採血をスタートさせる予定です。

冬季（室内）のトレーニング ●2012年1月8日～

展示場が雪に覆われてから、しばらくの間トレーニング自体が実施できない状況となりました。これは室内が細かい鉄柵で囲まれているため、ターゲット棒が使いづらいことに加え、エサを与えることや、触ることが困難であるためです。これでは冬季に治療が必要となった際、これまでのトレーニングの成果を発揮できなくなります。そこで、室内でのトレーニングに踏み切りました。キリンを横向きにすることにより比較的安全に行えることが分かった他、これまでのトレーニングによって、外からの刺激で驚くようなことがなくなっていたのは好材料でした。室内で可能なトレーニングは限られますが、現在は前肢上げ状態での静止、ターゲットによる横向き誘導および静止、後肢の脱感作を実施しています。その延長として、雪の動物園開催日で、キリンが寒くて外に出られない日は、室内通路にお客さまを迎え入れて公開トレーニングとしました。多くのお客さまの前でも、普段と変わらない動きを見せてくれます。

前肢上げトレーニング

今後は、全身の脱感作をより細かく進め、触れない部位をなくすことや、あらゆる状況下で、さらには誰がやっても常に一定の水準でトレーニングを実施できることが求められます。また、これまでのトレーニングをただ繰り返すのみならず、トレーニングによって可能となった削蹄訓練や、採血・採尿・検温等を定期的に実施することにより、実際の健康管理に役立てたいと考えています。ハズバンダリートレーニングが広く実施されるようになれば、国内各園のデータを比較し、エサや環境の違いによる健康状態の違いが見えてくるでしょう。その日が来ることを願いつつ、さらなる可能性を追求し続けます。

ニホンイヌワシ 有精卵の移動について

飼育展示担当 主査　三浦 匡哉

ニホンイヌワシは北海道から九州にかけての全国に生息分布が確認されている大型の猛禽類です。野生下の推定個体数はおよそ650羽で、うち約200のペア形成が確認されています。繁殖期は1月下旬～2月で、通常2個産卵し、42～45日後に孵化します。最近の繁殖成功率は非常に低く、また、仮に2つ孵化しても、兄弟間闘争により、2羽とも無事に巣立つことはほとんどないため、将来における個体数の急速な減少が危惧されています。

大森山動物園では、ニホンイヌワシを飼育して40年という経験があり、これまでにも、国内で初めて人工授精による胚発生の確認や国内初のローテーション育雛法で3羽を巣立たせる等、様々なことに取り組んできました。

イヌワシの生息域外保全の役割を見据えた動物園の現在の取り組みについて紹介します。

それまで当園では人工育雛について経験がありましたが、2010年に孵卵器による人工孵化と、異なるペアの間で卵やヒナの移動を行いました。これは、野生下の巣から動物園に卵を移動すること、またはその逆を想定して、園内の2ペア間で行ったものです。1つのペアはこれまでにたくさんの子孫を残し、繁殖に貢献してきたベテランペア（信濃・たつこ）、もう1ペアは有精卵を産んだことはありましたが、孵化・育雛の経験がない新婚ペア（鳥海・西目）です。2ペアの物理的な距離はせいぜい300mほどです。

結果は、孵卵器による人工孵化に成功し、また、孵化や育雛の経験がない飼育下のイヌワシでも、ちゃんとヒナをかえし、育て上げることが確認されました。

次に考えたのは、300mの距離をさらに伸ばすことです。2011年2月下旬に、信濃・たつこペアが産んだ卵3個を東京都多摩動物公園に移動し、多摩で孵化させる計画を立てました。稀少鳥類であるため、生きた鳥だけではなく、卵の移動も国の許可が必要となり、移動手続きに少し時間がかかりました。いよいよ卵の移動と思ったところで、先の東日本大震災により、計画が中止となってしまいました。

今年は、隣の岩手県の盛岡市動物公園と協力し、同じ計画を進めようとしています。盛岡では産卵・抱卵するものの、孵化には至っていないペアです。余談ですが、盛岡のイヌワシの雌は、当園で初めて繁殖した「空（そら）」です。繁殖経験のないペアでの孵化・育雛、それも距離が300mから100kmと、一気に300倍以上も長くなるわけです。

しかし、今回はいくつか不安要素があります。猛禽舎改修工事のため、信濃・たつこペアは住み慣れた環境から、初めて入る場所に移り、しかもそこは今までいた所よりもかなり狭くなっています。そのため、いつもどおり卵を産んでくれるかどうか心配です。ただ、2月になり交尾行動が確認されているので、少し期待が持てます。

このコミュニケーションが皆さんのお手元に届く頃は、有精卵を盛岡に移動する直前ぐらいでしょうか？今回、この試みがうまくいけば、次はさらに距離を伸ばし、石川県や大阪の動物園のイヌワシペアでもできるように検討したいと考えています。日本動物園水族館協会やイヌワシ飼育園館と共に野生下のイヌワシをバックアップする体制を築き上げ、動物園として生息域外保全に寄与できるようにしたいと考えています。

イベントレポート

秋の動物ふれあいフェスティバル　10/9・10開催

毎年たくさんの市民で賑わう大森山動物園の恒例行事です。今年のテーマは「絆」、サブタイトルに「食と遊びと動物たち」を掲げ、動物たちと職員の力を結集してお客さまをお迎えしました。

味覚の秋ということもあり、本園のゾウの糞でつくった堆肥を主な肥料として育ったお米「ゾウさん米」や山内いもの子汁の直販が行われ思わぬご馳走に皆さま大喜びでした。園内の各獣舎に設置された問題に挑む「ウォーククイズ」には「アニマル戦隊ミルヴェンジャー7」（写真左）が登場して子どもたちは大喜び。また、キリン展示場を大開放して体育の秋を楽しむ「親と子の大運動会」では、親御さんと子どもたちの歓声が澄み渡った青空に心地よく響いておりました。

大好評の「どうぶつパレード」を2日間とも実施しました。出発地点のゲート下の広場から詰めかけた人々で大賑わい。ペンギンや仔ヤギたちが目の前を歩きはじめると、どの親子やカップルも目をキラキラ輝かせて満面の笑みで見つめ合ったり、体を寄せ合って喜んだり、しっかりと「絆」を深めていただけたのではないでしょうか。

いい夫婦の日　11/23開催

～新しい視線で楽しむ大人の動物園～というサブタイトルを掲げ、今年で3回目になるご夫婦限定の特別企画です。子どものための施設という印象が強い動物園ですが、あらためてご夫婦だけで散策すると新たな発見がいっぱいのようです。メインとなるスペシャルガイドツアーでは、間近に見るキリンの迫力と可愛らしさに、どのご夫婦も満面の笑顔。イベント終了後のアンケートには、「楽しかった」「満足」「また企画してほしい」などなど、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

さよなら感謝際　11/27開催

平成23年中に亡くなった動物の霊を慰めるとともに、お客さまに感謝の意を込めて毎年開催する「さよなら感謝祭」。地元、浜田小学校の児童や各ボランティア団体の他、当日ご来園いただいたお客さまなど約200名の方に出席していただきました。亡くなった動物たちの祭壇を前に、小松園長が「今年は「キリン」や「アムールトラ」など人気動物が相次いで亡くなったが、新たな命も誕生している。命のはかなさ、尊さを学んで欲しい」などとあいさつ。出席した浜田小学校の児童たちが目を輝かせて聞き入っていたのが印象的でした。その他、餅つき体験が行われるなど、賑やかなうちに通常開園が終了しました。

ときめきナイトin大森山

7月16日（土）と12月11日（日）の夏と冬の2回にわたり大森山動物園を主会場に若者男女交流イベント「ときめきナイトin大森山」を行いました。民間事業者に運営を委託する新しい試みで、夏冬共に募集定員100％の参加率でした。「どうぶつ」という共通したキーワードを軸に、動物園探検、軽音楽、夜の観覧車など、楽しみながら交流を深めていただきました。この企画でカップルとなった方々が、お子さまを連れて動物園に遊びにくる。そんな日が来ることを心からお待ちしております。

雪の動物園

1/7～2/26の土日祝 計18日間開催

冬期の開園は平成2年からスタートし今回で23回目となりますが、「雪の動物園」としての開園は今年で7回目となります。雪と戯れ、走り回る姿など、普段は見ることができない冬の動物たちの様子をじっくりと観察、体験していただき、雪で真っ白になった幻想的な雰囲気の中で動物園を楽しんでいただくために実施しております。

とにかく今年は連日の大雪で園内の除雪作業が大変でしたが、たくさんのお客さまに喜んでいただけたのではないでしょうか。特に1月7日の初日は猛吹雪にもかかわらず開園時間前からゲート前にたくさんの方が並ぶなど、市民の「雪の動物園」に対する期待度が伺えました。「トナカイのお散歩タイム」という新たな試みが大好評。間近に迫るトナカイに恐る恐る近づく子どもたち。その夜の食卓は、子どもたちの武勇伝で盛り上がったのではないでしょうか。

飼育日誌

9/4	ケヅメリクガメ	カメコの卵7個を孵卵器に入卵。
9/9	アフリカタテガミヤマアラシ	仔供2頭生まれているのを確認。
9/18	ウサギ	道の駅セリオン駅長のムッキー死亡。
	ワピチ	かなり荒くなってきている。
9/21	ハクビシン	ロコ　盛岡市動物公園へ搬出。
	カナダヤマアラシ	朝、トロロ死亡していた。
9/24	カピバラ	海♀午後プール内で沈み、その後死亡。
9/25	カピバラ	サツキ♀　朝、2頭出産していた。
10/3	ノドジロオマキザル	朝、デメ死亡していた。
10/8	インドクジャク	『クジャクのくに』のゲート開放。
10/9	ポニー	動物パレードにエルフィー・エニフが参加。
10/13	ホンドテン	♀が同居♂に咬まれて入院。
10/17	アフリカゾウ	ゾウさん堆肥利用農家より稲藁寄贈。
10/18		アムールトラ2頭、ピューマ♂搬入。
10/19	アムールトラ	アシリ　新入個体を警戒して収容できず。
	ピューマ	新入トラ・ピューマ、共に餌は食べていない。
10/24	シバヤギ	当歳個体5頭、東山動物園に搬出。
	タンチョウ	チルチル♀　搬出のため、輸送箱に収容。
10/27	トナカイ	マオ♂　攻撃してくる。危なくなってきた。
	サル山	個体識別作業を行う。
11/5	ホンドテン	テン吉　死亡。全身に腫瘍がみられた。
	コモンマーモセット	朝、もも2頭を出産していた。
	アカコンゴウインコ	入り口から40cmほどの所に卵2個確認。
11/9	フンボルトペンギン	ペンギン舎塗装工事。
	ライオン	マンゴー♀　動き鈍い。馬肉は200g程採食。
11/10	ライオン	マンゴー　午後から麻酔下で治療。
11/12	アムールトラ	ヒロシ、アサコ展示開始。夕方は収容できず。
11/13	コモンマーモセット	仔供1頭死亡。
11/15	アライグマ	ケイ♂　16:20頃死亡。
11/20	サル山	野生のニホンザルがサル山周辺に出没。
11/21	アカコンゴウインコ	巣箱の中より雛と思われる声あり。
	アフリカタテガミヤマアラシ	双仔を性別鑑定。2頭とも♀と判明。
11/22	アカコンゴウインコ	ヒナ1羽の死亡を確認。
	サル山	野生ザルがサル山に侵入。収容して隔離。
12/2	ツキノワグマ	♀ルビー寝室内観察用カメラ設置する。
12/4	トナカイ	カイオウ　頭絡トレーニングを再開。
12/7	シバヤギ	茶臼山動物園からシバヤギ♂搬入。
	コモンマーモセット	仔　一人行動をしている時間が急に増えた。
12/9	ツキノワグマ	2頭とも冬ごもりにはいった様子。
	ラマ	親仔を輸送箱でキリン舎へ移動。
12/12	ツキノワグマ	ルビー♀　10時頃、飲水確認(モニター)。
		キジ舎冬囲い、野生サル郊外へ放獣
12/16	アミメキリン	寝室内で初めて採血に成功。
12/19	コウノトリ	ヒナ1羽、捕獲移動時にフェンスに激突し、死亡。残り2羽は無事捕獲し、体重測定などの後に移動。
12/21	チョウゲンボウ	ちょうさん♀　死亡。前日は不調は感じず。
	アフリカゾウ	♀の採血成功。四肢洗浄とオイル塗布実施。
12/29	チンパンジー	モート凍結防止用ポンプ2機取り付け。
12/31	トナカイ	カイオウ　20分ほど園内に連れ出す。
1/1	カピバラ	ぐり　左後肢に跛行あり。爪先から少量の出血あり。
1/2	イヌワシ	展示ペア　交尾時の鳴き声確認する。短め。
1/4	イヌワシ	猛禽舎改修工事のため、若♂4羽を病院へ移動。
		体重　千秋3250g　風斗3550g
		風雅3450g　風輝3000g
	トナカイ	カイオウ　園内歩行練習。ラクダを警戒、ツルの声にも驚く。
	ワピチ	♂♀ともにキーパーに攻撃的。
		♀は前足を振り上げてくる。
1/6	ウサギ	新ロップイヤー♂1♀2新ライオンラビット♂検疫終了。
	イヌワシ	11第1ヒナ　円山動物園へ搬出。
1/7	アカコンゴウインコ	給餌の際、巣箱内サッシ側に卵1個確認する。
1/9	イヌワシ	猛禽舎改修のため、展示繁殖ペアを予備舎へ移動。
1/14	アカコンゴウインコ	2個目の卵を確認する。
	トナカイ	カイオウ　ゲートでお客さまの見送り。階段の歩行も問題なし。
1/22	プレーリードッグ	性別チェックの結果、新規2頭はどちらもオスと判明。
1/23	イヌワシ	第3ヒナ(多摩ZOOへ搬出)
1/28	フンボルトペンギン	白瀬南極探検隊100周年記念行事にペンギン展示。
	アカコンゴウインコ	♀、巣箱に戻らないため、卵2個を回収し孵卵器に入れる。

かたばた通信 ～編集後記～

今号は、「通常開園スタート」と「動物トレーニング」の特集記事を掲載しました。それぞれ独立した内容となっている2つの記事が、実は大きく関係していることに気づいていただけたでしょうか？動物トレーニングは動物の健康管理が目的ですが、その成果が動物の展示方法や各種イベントなどに活かされています。トレーニングを行っている結果、お客さまへのサービスとして提供できていること、そしてトレーニングに取り組むことで、今後のサービスの発展にもつながるということを多くの方に知っていただくため、特集として取り上げました。

昨年4月から大森山動物園の広報担当として、コミュニケーションの編集を担当しています。まだ携わって2回目のコミュニケーションですが、編集する中で今回取り上げたトレーニングを始めとする動物の魅力や不思議、奥深さなど、周りを見渡すと動物園にはおもしろい素材がたくさん転がっています。それらを誌面で紹介していくことで、動物園の魅力を伝えていければと思います。(保坂)

●発行所／秋田市大森山動物園
〒010-1654秋田市浜田字潟端154　TEL018-828-5508　FAX018-828-5509　E-mail：ro-inzo@city.akita.akita.jp
●発　行／小松　守　●デザイン・印刷／株式会社バウハウス

●動物取扱業者／秋田市長　穂積　志　●事業所及び所在地／秋田市大森山動物園　秋田市浜田字潟端154
●登録に係る動物取扱業の種別／展示：指令動-7-5-7　貸出し：指令動-7-3-2　販売：指令動-7-1-36
●登録の年月日／平成19年6月1日　●有効期間の末日／平成24年7月31日　●動物取扱責任者／佐藤佐十志

大森山動物園　検索

ホームページ
http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/